

資料6 人的被害に関する減災目標

項目	南海トラフ地震	首都直下地震	日本海溝・千島海溝地震
人的被害に関する想定	<p>○死者数：最大約32万3000人</p> <p>○このうち、約7割が津波、約3割が揺れによる死者</p> <p>〔 津波による死者：約23万人 揺れによる死者：約8.2万人 〕</p> <p>➡ 津波対策 + 揺れ対策</p>	<p>○死者数：最大約2万3000人</p> <p>○このうち、約7割が火災、約3割が揺れによる死者</p> <p>〔 火災による死者：約1.6万人 揺れによる死者：約0.7万人※1 〕</p> <p>➡ 火災対策 + 揺れ対策</p>	<p>○日本海溝モデル 死者数：最大約19万9000人</p> <p>○千島海溝モデル 死者数：最大約10万人</p> <p>○大半が津波による死者</p> <p>➡ 津波対策</p>

項目	南海トラフ地震	首都直下地震	日本海溝・千島海溝地震	
基本計画	目標設定時期	平成26年3月	平成27年3月	令和4年9月
	減災目標	今後10年間で概ね8割減少	今後10年間で概ね半減	今後10年間で概ね8割減少
	主な施策	<p>○建築物の耐震化</p> <p>○ライフライン施設の耐震化・耐浪化</p> <p>○津波ハザードマップの作成・見直し・周知の推進</p>	<p>○建築物の耐震化</p> <p>○感震ブレーカーの普及、密集市街地の解消等の火災対策</p> <p>○業務継続体制の構築</p>	<p>○住民の早期避難への意識向上等に向けた、地域での訓練・防災教育等の実施</p> <p>○津波避難のための避難路や避難場所の整備・指定</p>

※1 合計死者数が最大となる冬・夕方における内訳。揺れによる死者の最大は、冬・深夜の約11,000人